

第1回 下水道における新型コロナウイルスに関する調査検討委員会  
議事概要

日時：令和3年3月5日（金）10時00分～12時00分

場所：Web会議システムにより開催

海外事例について、社会実装している活用事例における体制等について整理していければいいと考える。

下水中の新型コロナウイルス濃度で市中感染の実態を把握するためには、採水時間や採水方法(スポット、コンポジット)を考慮することが重要ではないか。

今後、下水調査結果について分析していく際に、下水道の流域情報と、保健衛生部局が持っている処理区内のデータを合わせていく必要があるが、下水処理場の処理区と保健所の管轄区域が一致していないことや、都道府県と保健所設置市の関係でも情報が得られにくいということも聞いたことがあり、この点についても整理すべきではないか。

今回の下水調査結果について、処理区の特性などを含め分析することが必要ではないか。

指定感染症の病院からの排水は消毒されて下水に排水されていると聞く一方、介護施設は一般の家庭と同じようにそのまま下水に排水されている。コロナウイルスは塩素処理に弱いと、病院からは下水にウイルスは排出されていない可能性もあることに留意する必要がある。

測定のあり方について、保健衛生部局の感染防止対策に寄与する観点が下水道管理者の役割であり、測定のあり方を検討していく中でも重要と考える。また、情報共有がうまくいく仕組みも含めて検討していければいいと考える。